

四旬節第五主日（A 年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ福音 11：1-45

マリアとその姉妹マルタの兄弟ラザロが病気で死んだ。姉妹たちは泣き言われた。主よ、もしここにいてくださいましたら、私の兄弟は死ななかつたでしょう。イエスは答えた。私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。マルタも、イエスが世に来られるはずの神の子、メシアであると信じた。イエスは天を仰いで言われた：父よ、私の願いをいつも聞き入れてくださって感謝します。こう言ってから、ラザロ、出てこなさいと大声で叫ばれた。ラザロは。

（二）カテキズムの響き：カトリック教会のカテキズム #2603-2604、627-628、994、998、1000-、1003、1214、又は、YOUCAT #152-155

公生活中的キリストの祈りについて、一つはラザロを生かさせる前の祈りです。出来事に先立って、やはり、感謝の祈りで始まっています。御父が常にご自分の祈りを聞き入れられるということを示しています。イエスが司祭的祈りとして、絶えずご自分の方から祈り求めておられることを示す同時に、イエスは賜物が与えられる前に、お与えくださる方、賜物と一緒にご自身をお与えくださる方と一体となられるのです。

キリストはの死はまことの死です。三日目に起こったイエスは復活です。死者の中から復活させるラザロは新しい命に生きるしるしですが、これは、新しい命に生きるためにキリストとともに罪に死ぬキリスト者の埋葬を効果的に表します。洗礼の秘跡によって、洗礼志願者が水の中に沈めることは、キリストの死と結ばれて埋葬され、キリストとともに復活して墓から出て、新しく創造されたものとなることです。イエスは、私は復活であり、命であるといって、復活信仰をご自分に結びつけておられます。イエスを信じ、その御体を食べ、御血を飲む人々を世の終わりに復活させてくださるのは、イエスご自身にほかなりません。善を起こった者は復活して命を受け、悪を行った者は復活して裁きをうけます。事実、キリストが世の終わりに私たちを復活させてくださるのが真実であれば、私たちがすでに今、何らかの形でキリストとともに復活していることも、また真実です。洗礼によって、キリストと結ばれた信者は、復活されたキリストの天上の命に、すでに、現実にあずかっています。私たちはエウカリスチアにおいてキリストの体で養われ、すでにキリストの体に属しています。感謝の祭儀にあずかる私たちは、すでにキリストによる私たちの体の変容を前もって味わっているのです。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#124 信仰による「イエスキリストは、陰府に下り、三日に死者のうちから復活された」こと
、205 この信仰宣言は、キリストが真の死と真の埋葬を経験され、神の力がキリストの体を腐敗から守ることを強調します。イエスは靈魂の状態で陰府にいる死者たちのもとに到達され、正しい人たちを解放され、三日目に復活されました。私たちが死の時、靈魂と体が分離し、体は腐敗しますが、不滅である靈魂は神の裁きを受けに行きます。そして、主が再び来られ、体の変容させられた姿で復活するときに、その体と再び一つになるのを待つのです。

#542 福音書による「イエスは絶えず御父との愛の交わり、全生涯で祈る」こと

最後の祈り：集会祈願、奉納祈願と拝領祈願をご利用し、共同祈願と終わりの祈りを行ってください。